

中部日本ニュース

シネスコ版

甲新新聞 No. 146 本編同じ

高知新聞 No. 304 " No. 470 38.1.25

新愛媛新聞 No. 133 "

一、初春スケッチ

—東京・山口

大相撲初場所のふれ太鼓が隅田川べりをゆくとき東京も春のムードにつつまれます。初場所の声をきくと、山口県岩国ではアメリカ軍海兵隊の大相撲が始ります。この横綱はカーター伍長。〃しこ名〃も〃小鳳〃とつけ、はりきって土俵に立ちましたが勢い余ってすってんころりん。オデコに大きなコブをこしらえてしまいました。

東京講堂館では鏡開きが行なわれ、この日午前六時からの寒げいこには七百人もの少年少女が集りました。この日の夜の午前零時。銀座四丁目では円筒型・全館ガラスバリという新しいビルディングの完成式典が行なわれました。

真夜中の式典などで人を集めたのも、日本一高い土地をうまく利用しようという経営者の苦心の演出です。

また首相官邸では新年恒例の芸能文化人パーティーが開かれました。この日集った映画俳優や作家は七百人。豪華なメンバーのパーティーに池田さんもごきげんでした。

アイモ風土記

一、拓けゆく尾鷲

へ山田、羽田

—三重

熊野路の表玄関として知られる尾鷲は、岬と入江の連続する天然の良港として、むせるような磯の香りにはぐくまれてきた港町です。今日でも遠洋漁業の基地として、年間十一億円を売上げていますが、最盛期には遠くおよばないとか。それも大部分が、中央の大資本に吸収され、ここから出漁するマグロ船は年々先細っていくこうしたなかで獲る漁業から造る漁業へ、ここでも精力的な脱皮が見られます。また失なわれゆく海の幸から山の幸を求めて、ゆるやかな斜面はミカン園にきり開かれています。こうした折から中部電力はここに火力発電所をつくることになりました。それも出力百五十万キロワット、東洋一という巨大なもの。

そして二年後には、電力、石油を中心に木材、食品の三大コンビナートが約束されているのです。

こうして名古屋と大阪を結ぶ南紀州の埋れた風土も、ようやく近代工業都市として開花の春を迎えようとしています。

347

304

671